

平成二十二年 第一回午前 一般入試

平成二十二年二月一日実施

# 京華中学校 入学試験問題 国語

一、つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

話が終わると、チヨさんは目に浮かんだ涙をハンカチで拭きながら、「そうだったの……つらかったわねえ、亮太くん、まだ小学生なのに」と言った。

「でも、ぼく、もう元気だよ」

① 亮太がけなげなことを言うものだから、チヨさんの目はまた赤くなる。

一方、瑞雲先生は、じっと押し黙っていた。作務衣の袂の中で腕組みをして、背筋をピンと伸ばし、眉間に皺を寄せて、話の最初から最後まで目を閉じたままだった。

「松山圭子さん、ねえ……」

チヨさんの記憶にも残っていない様子だった。しかたない。もう三十年近く昔のことで、その頃は、瑞雲先生の書道教室もたたくさんの小学生でにぎわっていたのだ。

「ごめんなさいね、歳をとっちゃうと、ほんとにいろんなこと忘れちゃって……」

チヨさんは申し訳なさそうに言ったが、私は笑って首を横に振った。それでいいのだ。無理やり「覚えてるわよ」なんて言われると、そっちのほうが亮太を悲しませてしまうことになるだろう。

「センセイは？ ねえ、なにか覚えてませんか？」

チヨさんに訊かれた瑞雲先生は腕組みをして目をつぶったまま、「覚えとらん」と A。

「あの頃の写真なんて撮ってませんでしたかねえ……」

「そんなもの、一度も撮つとらん」

1 「でしたよねえ……」

瑞雲先生は腕組みを解くと、どこへ行くとも告げずに席を立った。

部屋に残された私と亮太は顔を見合わせ、しょうがないよね、しょうがないよね、と B。亮太も瑞雲先生のそつけない反応で逆にすつきりと踏ん切りをつけてくれたようだ。

「ごめんなさいね、ほんとにセンセイ、愛想なしで……」

「いえ、こつちこそ、ひとが亡くなった話なんかしちゃってすみません、せつかくごちそうがあるのに」

食べよう。鮓を食っちゃおう。鯛の活けづくりも遠慮なくいただく。さ、食え食え、腹減ってるだろ、と手振りうながすと、亮太もさっそくイクラに手を伸ばした。

3 「でも……亮太くんがセンセイのお弟子さんになる理由、なくなっちゃったわねえ……」

4 チヨさんは半分あきらめながら、寂しそうに言った。

一瞬、よしっ、と思った。だが、「しょうがないわよね」と自分に言い聞かせるようにつぶやくチヨさんを見ると、胸がギュッと締めつけられる。

亮太も迷っているのだろう、私に「どうする？」と訊かれるのを避けるように、うつむいて、黙々と鮓を食べつつける。

そこに瑞雲先生が戻ってきた。色画用紙を綴じた大きなファイルを脇に抱えていた。

「昭和五十二年とか言ってたな」

「は？」

「その、アレだ、この子のお母さんがウチをやめたのは」

「ええ……五十二年の三月に小学校を卒業しましたから、それでやめてるはずです」

「正月にはまだいたのか」

「……たぶん」

ふむ、と先生はうなずいて、ファイルを私に差し出した。

「ここに、あるかもしれん」

なにが？ と訊く前に、チヨさんが「ああ、そうそう、そうよねえ」と C。

書き初めの作品——だった。

瑞雲先生の書道教室では、毎年の書き初めの作品を記念に保存してあるのだという。保存といっても色画用紙に半紙を貼って綴じただけのものだが、それでも——「ある」と「ない」では天と地ほど違う。

「わからんぞ、その日休んだりしたら書いてないからな。わからんぞ、ないかもしれんぞ」

先生は念を押した。私も、ダメでもとんだから、と期待しすぎないよう自分に命じた。

5 だが、そんな「保険」は亮太には通じない。歓声とともに私からファイルを受け取り、畳の上に広げて、一枚ずつめく

りはじめた。

あつてくれ——。

私も祈る。

頼む、亮太をお母さんに会わせてやつてくれ。

亮太はめくる。めくりつづける。松山圭子の作品はなかなか出てこない。五十枚ほどのファイルは、あつというまに残りわずかにになった。

やつぱり、なさそうだなあ……と言って、先にあきらめてやったほうが亮太の悲しみがやわらぐだろうか、と思った。

だが、頭の中の考えとは裏腹に、私は亮太と一緒にいってファイルを覗き込んで、「あるよ、あるある、絶対にあるから」と声をかけていた。

あつてくれ——。

残り五枚。

亮太のために、美嘉のために、そしてなにより私自身のために。

残り三枚。

頼む、圭子に会わせてくれ——。

「お父さん！」

亮太が声をあげた。

最後の一枚が、圭子の作品だった。

間違いない。(六年一組 松山圭子)——間違いない、絶対に。

〈希望〉

半紙に大きく、そう書いてある。

希望ヶ丘の、希望だ。

小学六年生の正月、中学入学を春に控えた圭子の胸には、どんな「希望」があつたのだろう。それはいくつ叶えられて、いくつ断ち切られてしまったのだろう。自分の人生が四十歳前後に終わってしまうなどとは、夢にも思っていなかったはずだ。

「これ、お母さんが書いたんだよね」

「ああ、そうだ。お母さんの字だ」

「お母さんだよ」

「そうだ……そうだよ、お母さんが一所懸命書いた字なんだ……」

亮太は③とおし、そうに文字を撫でる。それを見ていると、私の胸もじんわりと熱くなる。

ところが——。

瑞雲先生が咳払いして、「よし、もういいな」と言った。

きよとんとする私と亮太から、ファイルを取り上げてしまった。

6  
チヨさんが「ちよつと……センセイ……」と咎めるように言ったが、先生は知らん顔してファイルを小脇に抱え、部屋を出て行ってしまった。

なんなんだ、あのじいさん。

さすがにムカツとした。

確かにファイルは先生の物だから、「返せ」と言われれば返すしかない。だが、亮太と二人でしみじみと圭子との再会を噛みしめていたところに、あれはないだろう、あれは……。

チヨさんもA「ごめんなさいね、どうしたのかしら」と言う。

やつぱり、入門は取り下げだ。頑固までは許せても、ひとの心がわからない男に亮太を預けるわけにはいかない。

瑞雲先生はなかなか戻ってこない。しらけた沈黙の流れるなか、さつさと鮎を食べた。亮太も子どもなりに腹を立てているだろう、よけいなおしゃべりをせず、美味しいとも言わずに、黙々と食べていた。

鮎桶が空になっても、先生は戻ってこなかった。チヨさんがB「お茶でもいれましょうか」と言うのをC断って、

「そろそろおいとまします」と腰を浮かせたとき、襖が開いた。

「これ、持って帰れ」

先生はD手に持っていた額を差し出した。

〈希望〉——圭子の書き初めが、額に入っていた。

口をとがらせていた亮太の顔が、ぱあつとほころんだ。

「いいんですか？」

私の声もはずんだ。

「要らないのなら、勝手に捨てろ」

先生はそっけなく言つて、私たちの視線から逃げるように、そそくさと座った。



9. A D にあてはまることばとして適当なものを選び、それぞれその符号で答えなさい。
- ア 気まずそうに      イ 困惑して      ウ つくり笑いで      エ 仏頂面のまま

二、つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

1 外国で起こった本当の話。

ある奇術師が演技中に、劇場で火災が発生したのを知らされた。観客は奇術に夢中で、誰一人火事には気付かない。奇術師は少しもあわてず、一時奇術を中断して、観客に言った。

「これから、プログラムにはない、素晴らしい奇術を特別にプレゼントしましょう。本物の消防自動車を号令とともに消してしまおうというのです。ただし、本物の消防自動車は大きすぎて、舞台の上に載せることが出来ませんでしたので、野外で演じることにします。どうぞお手持品を忘れぬようにして、お静かに会場をお移り下さい」

全員が場外に出ると、なるほど本物の消防車もあって、消防士もいる。観客は A のうちに消防車が消える奇術を待つうち、ややしばらくして、これは本物の火災だということを知った。ために、何の混乱もなく、全員無事に避難することが出来たという。これは突発事故を上手なトリックによって、避けることが出来た例である。

反対の例がある。列車の事故を正直に乗客へ告げたため、先を急ぐ群衆に混乱が生じ、大惨事が生じてしまった。昭和二十六年、日暮里駅で起こった陸橋事件は、ラッシュアワーのとき、列車を所定の位置に停車させてしまったのが原因になったといわれる。

正しいトリックによって、美しい嘘をつくことは難しい。

戦国時代は B の時代であったから、少しでも多く自分の強さを誇示しなければならなかった。相手の知識や感覚の限界を利用して、事実を誤認させる技術も、大いに使われた。トリックが華麗に行われた時代であった。

例えば、<sup>2</sup>蜀の名将であった諸葛孔明の使ったさまざまなトリックは、その素晴らしいため、今でも語りつがれているほどだ。孔明は自分の軍が弱体だったとき、敵軍の襲撃と聞くと、門戸を大きく開き、水を打たせて、自分は楼上に登って、悠然と琴を弾きはじめた。相手はこの様子を見て考え込んでしまった。孔明の態度は、無防備を装う罠だと思った。そんな中に無分別に入れば、隠れていた軍隊が一度に取りかこみ、一人残らず殺されるに違いない。敵軍はそのまま退陣したのである。

孔明は「死せる孔明、生ける仲達を走らす」の故事でも有名だ。孔明が病没すると、あらかじめ孔明が立てておいた作戦どおり、蜀の軍隊はただちに退却をはじめた。これを見た仲達は五丈原に総攻撃を開始した。そのとき、前方に車上で指揮をとる孔明の姿が現われ、攻撃の軍鼓が響きはじめた。それまで、孔明のさまざまなトリックに引っ掛かってきた仲達は、またもや偽装退却作戦にはめられたかと、急いで進撃を中止し、軍を撤退させた。孔明を失った蜀軍は、こうして難局を切り抜けることが出来た。車の孔明は、実は孔明そっくりの人形であった。孔明は自分の死まで、トリックに使ったのである。

(中略)

日常生活でもそうだ。

子供が転ぶ。怪我でもしやしないかと、あわてて抱き起こすのは、愚かな正直者である。

賢い親なら厳かにこう言うだけだろう。

「痛くない。お前はもう○歳だ」

よく考えれば、こんな非論理的な言葉はない。第一、親が転んだわけではないから、その痛さが親に判る道理はない。第二に転んだことと○歳になったことと、痛さの感覚とは何の関係もない。だが、親が自分の狼狽を隠して厳かであれば、子供は半分そをかきながらでも立ち上がるだろう。

子供を過大評価してやって、自信をつけさせるというトリックもある。

「お前はもともと頭がいいんだから、しっかり勉強すれば一番になるかも知れない」という具合だ。

世の中にはなくてはならぬトリック、人のためになるトリック、美しいトリック、楽しいトリックが無数にある。

ただし、その正しい使い方はまことに難しく、子供には危険である。少しづつ正しいトリックを教えなければならぬ。

「嘘は泥棒の始まり」と言い、それだけで正しい嘘の使い方を教えなければ、鉛筆削り機がなければ、鉛筆も削れなくなるような、融通性のない不完全な人間が出来上がるだろう。彼は自分にも嘘をつけず、自分に忠実なあまり、世間の迷惑もかえりみず、ラジオの音を小さくすることも知らない。気が向かなければ人に挨拶することもない。犯罪者の多くは、案外正直で、上手な嘘をつくことが出来ないため、せっぱ詰まったとき、非常手段に及ぶということだ。

この本をまとめるに当り、数多いトリックを分類整理したところ、私たちの感覚がいかに不確かなものか、改めて驚いたのである。不確かな感覚の上に、トリックがかけられれば、私たちはすぐに欺されてしまう。

トリックに通じるといことは、そうした不完全な人間性を見詰め、理解することなのである。同時に悪いトリック、危険なトリックにかからない技術も身につくだろう。それは生活の上でも、大きな武器になるはずだ。

アメリカの初代大統領ジョージ・ワシントンには、子供のとき桜の木を折ってしまい、それを父親に正直に詫びたという話はあまりにも有名だ。

英国の作家オースカー・ワイルドはこれに対し、「だからアメリカ人は駄目だ。アメリカに芸術が栄えないのは当然だ」と言った。

芸術はたえず真実とともにある嘘の効果を注目し、虚構の世界に真実を描き出しているのである。トリックの世界は単なる欺しやぺてんと言えないほど、広大でかつ深い。

(泡坂妻夫『トリック交響曲』による)

1. 線部1「外国で起こった本当の話」はどのようなことを言おうとした例ですか。「く」の例」に続くように二十一字で抜き出しなさい。

2. A B には四字熟語が入ります。つぎの に漢字一字ずつを入れ、それぞれの四字熟語を完成させなさい。  
A 半 半 B 肉 食

3. 線部2「蜀の名将であつた諸葛孔明の使つたさまざまなトリック」について、つぎの(1)・(2)に答えなさい。

- (1) トリックの例はいくつあげられていますか。漢数字で答えなさい。
- (2) それらの例に共通することは何ですか。二十七字で抜き出しなさい。

4. 線部3「親が自分の……上がるだろう」について、つぎの(1)・(2)に答えなさい。

- (1) 「自分の狼狽を隠」さない者を何と言っていますか。六字で抜き出しなさい。
- (2) これはどのようなトリックだと言えますか。説明しなさい。

5. 線部4「それは生活の上でも、大きな武器になるはずだ」について、つぎの(1)・(2)に答えなさい。

- (1) 「それ」とは何をさしていますか。十三字で抜き出しなさい。
- (2) 線部4の理由として最も適当なものを選び、その符号で答えなさい。  
ア 自分の感覚がいかに不確かなものであるかということに気付くことで、自分がだまされただけでなく、巧妙に相手をだますことができるようになるから。  
イ 日常生活を送りながらも、もっと芸術的な分野に目を向けることができるようになり、虚構の世界の真実というものがわかるようになるから。  
ウ 困ったときにいろいろな回避方法を見つけることができるようになり、難局を切り抜けることによって、生きる力をさらに高められるから。  
エ 起こさなくてもよい事件を未然に防いだり、子供に自信をつけさせたり、相手に不快な思いをさせずにすんだりするから。

三、つぎの1～5の 線部の漢字の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

1. とても大変な作業だったが、なんとか終わることができた。
2. 校舎内においては、上ばき使用を厳守しなければならない。
3. 今回は絶対に実験を成功させたいので、綿密な計画を立てた。
4. 海岸沿いのこの町はいつも気持ちのよい潮風がふいている。
5. 罪を犯してしまった者は、厳しくこらしめられなければならない。

四、つぎの1～5の 線部のカタカナを、それぞれ漢字で答えなさい。

1. 生徒会長は、無記名直接選挙によるトクヒヨウ数で一名選出される。
2. 校内で印刷物をハイフするためには、生徒会担当の先生の許可が必要だ。
3. どんな話が入っている本なのか、モクジを見て確認してから買った。
4. 今年の夏休みにオサナ友だちと二人で旅行に行く計画を立てている。
5. 無限の可能性をヒメた若者の力を引き出すことが大切だ。